

日 時 令和 3 年 2 月 3 日 (水) 17 時 00 から 18 時 30 分
場 所 大阪府庁新別館南館 8 階大研修室

【要旨】

1 ワクチン接種にかかる検討課題について

(1) 論点について

- ・接種完了目標の設定については、高齢者への接種を 3 ヶ月間で完了し、接種を希望する府民についてはスタートから 6 ヶ月間（4 月からスタートした場合 10 月まで）で完了できることを目標に、各市町村のスケジュールを聞き取りフォローしていく。
- ・接種方法については、地域の実情も踏まえつつ、診療所等での個別接種と集団接種をあわせて実施する。医療機関の V-SYS 関連事務とワクチン配送作業について行政が代替的に業務対応し、さらに個別接種の副反応時に対応できる仕組みを検討する。府医師会からも府内の診療所に個別接種の方針などを周知していただけるよう市町村より要望あり。
- ・各市町村の取組状況の共有と公表については、公表項目について今後調整する。
- ・高齢者施設については高齢者と施設従事者をできるだけ同時に接種を目指し、そのための方法を検討する。
- ・住所地以外での接種体制の確保については、高齢者優先接種の状況を踏まえ検討する。
- ・ワクチンのロスを抑える仕組みについて検討する。

(2) 市町村からの主な要望事項について

市長会会長より、以下のとおり要望の説明。

- ・国への要望：財源の確保や必要な情報提供、住民周知及び事業所への協力要請
- ・府への要望：情報提供及び関係機関への協力要請、接種体制の手順作成及び模擬訓練の実施

町村長会会長より、以下のとおり要望の説明。

- ・相談窓口の設置、冷凍庫の配置やワクチン配送システムの構築、備品・消耗品の国における確保

【要旨以外の主な発言】

(澤井委員)

- ・接種率をどの程度まで持っていくのかについても考えていく必要がある。
- ・スケジュールや数値目標は、府全域横並びであるべき。公表内容や公表方法は精査すべき。
- ・高齢者施設従事者への優先接種は非常に重要。
- ・住所地以外での接種体制の確保は段階的に取り組んでいくべき。同時スタートだと混乱しかねない。
- ・ワクチンロスがなくす取組みは重要。当日キャンセルが出たからとエッセンシャルワーカーを接種会場に送れるかは検討が必要。エッセンシャル関連業務に従事する市職員であれば融通が効きやすい。
- ・副反応の問題などを考えると集団接種という意見が医療側からある。
- ・府医師会からも府内の診療所に個別接種の方針などを周知してほしい。
- ・V-SYS 入力は安全面やスピードを含めて市町村が打ち込むほうがよいが、人や財源の問題になるので、国に言っていただきたい。

(田代委員)

- ・住民向けの相談窓口の設置をお願いしたい。
- ・小規模町村への配慮をお願いしたい。
- ・接種に必要な備品や消耗品等の確保が難しくなる恐れがあるので、国で安定的に確保いただきたい。

(茂松委員)

- ・インフルエンザは、2ヶ月で**210万本**、**420万人分**の予防接種を行っている実績あり。
- ・コロナワクチンは、どれだけ副反応がでるかということが非常に問題であり、診療所は持病も把握しており、被接種者もかかりつけ医なら安心。練馬区方式を大阪でも進めてほしい。
- ・個別接種の場合の、副反応時に対応する後方支援体制の整備が重要。
- ・個別接種の場合に**V-SYS**入力を市町村で入力できるようにしていただきたい。
- ・すぐに個別接種可の診療所は**23%**。情報が何もなくわからないとしている診療所が**43%**ある。しっかり情報提供すれば、**60%**以上の診療所で接種が可能。

(佐々木委員)

- ・すべての医療機関が何らかの形で関与することが大事。医療従事者に対する接種は病院中心でよいが、高齢者になると人数が変わってくるので、病院だけではなかなか難しい。
- ・アナフィラキシーショックの対応は、病院でないと難しいので、高齢者以降の一般接種の段階では病院が後方支援に回るという方法も検討する必要がある。
- ・ワクチンロスについて、医療従事者でもキャンセルが出る可能性あり。原因の一つが情報不足。メリットのほうはるかに大きいので、医療従事者のみならず府民にしっかり周知することが重要。

(生野委員)

- ・アナフィラキシーショックについては、二次救急あるいは三次救急が対応することで、かなり対応できる状況だと聞いている。

(高橋委員)

- ・ワクチン接種に係る講習会を企画。潜在看護師やフリーランスの看護師にも届くように、広報に協力いただきたい。
- ・集団接種会場に協会で必要なトレーニングをした看護師を送り出すなどの取組みもしていきたいので、協力をお願いしたい。

(松井委員)

- ・大阪市の場合、すでに外部委託契約済。
- ・大阪市内には高齢者が**70万人**。まずは、ここに注力したい。現時点で住所地外の若者の検討までマンパワーを割けない。

(永藤委員)

- ・**V-SYS**入力については診療所から**FAX**を送って、自治体が打ち込むとなるとどうしても時間差が出る。スピードを考えると、**V-SYS**入力業務を市町村がやるのがベストなのかは疑問。

(吉村委員)

- ・ワクチンロスについては、府で案を作って、検討させていただく。**LINE**予約システムも共有する。
- ・予算要望は、オール大阪で国に要望する。就労者のワクチン接種も府から経済団体に要望する。
- ・模擬訓練は、検討している市町村を府でピックアップして実施し、モデルは府で作成したい。
- ・個別接種における**V-SYS**入力の負担が大きい前提で、市町村の体制構築をお願いする。

(事務局)

- ・各市町村における接種体制やスケジュールなどについて府から照会して集約し、目標に向けて必要な支援を行いつつ、進捗管理・情報共有する。
要望事項は、府で取りまとめて、市長会・町村長会と調整する。

以上